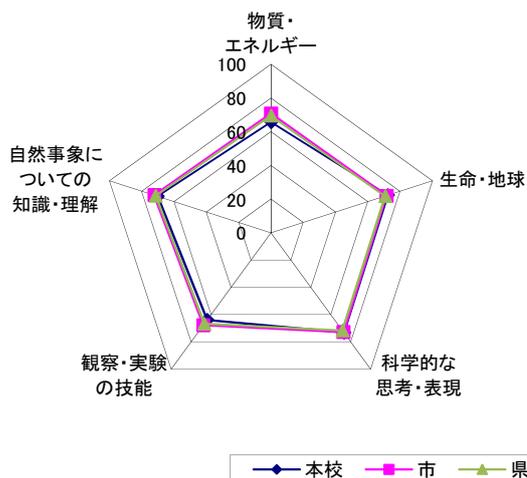


宇都宮市立海道小学校第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.8	70.8	69.5
	生命・地球	72.3	71.5	70.8
観点	科学的な思考・表現	73.2	72.8	71.7
	観察・実験の技能	63.9	67.8	66.8
	自然事象についての知識・理解	70.2	72.3	71.4



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>●領域の平均正答率は65.8%で、県平均より3.7ポイント低い。</p> <p>⇒○特に、閉じ込められた空気を圧するときの体積や押し返す力がわかる設問の正答率が87.1%で、県平均より11.4ポイント高い。空気と水の体積の変化についての理解に一定の成果が見られる。</p> <p>⇒●水が氷になると体積が増えることがわかる設問の正答率が41.9%で、県平均より19.3ポイント低い。温度による水の体積の変化に関する理解に課題が見られる。</p>	<p>・実験を行うに際し、その目的・事前の予想・予想を検証するための実験方法・実験の結果・予想と結果からの考察等をはっきりとさせて学習を進めていく。</p> <p>・実験に使用する道具の名前や使用方法を大切に扱う。また、日常生活の中で名前や使い方を確認していく。</p>
生命・地球	<p>○領域の平均正答率は72.3%で、県平均より1.5ポイント高い。</p> <p>⇒○特に、気温を正しく測る設問の正答率が61.3%と県平均より9.7ポイント高い。また、身の回りの植物の1年間の成長の様子に関する設問の正答率が100%だった。身の回りの植物の成長の様子や温度計の使い方に成果が見られた。</p> <p>⇒●方位磁石の使い方に関する設問の正答率が58.1%と県平均より11.5ポイント低い。方位磁石の使い方に課題が見られる。</p>	<p>・月の動きや形の変り方を理解させるためにデジタル教材を使って覚えさせたり、図や絵を入れた新聞を作らせたりするなど、機器や作業学習を導入して理解させる。</p> <p>・ICT教材の活用やプラネタリウム、学校の周りの自然観察等、身の回りにある施設や環境を活用して指導する。</p>